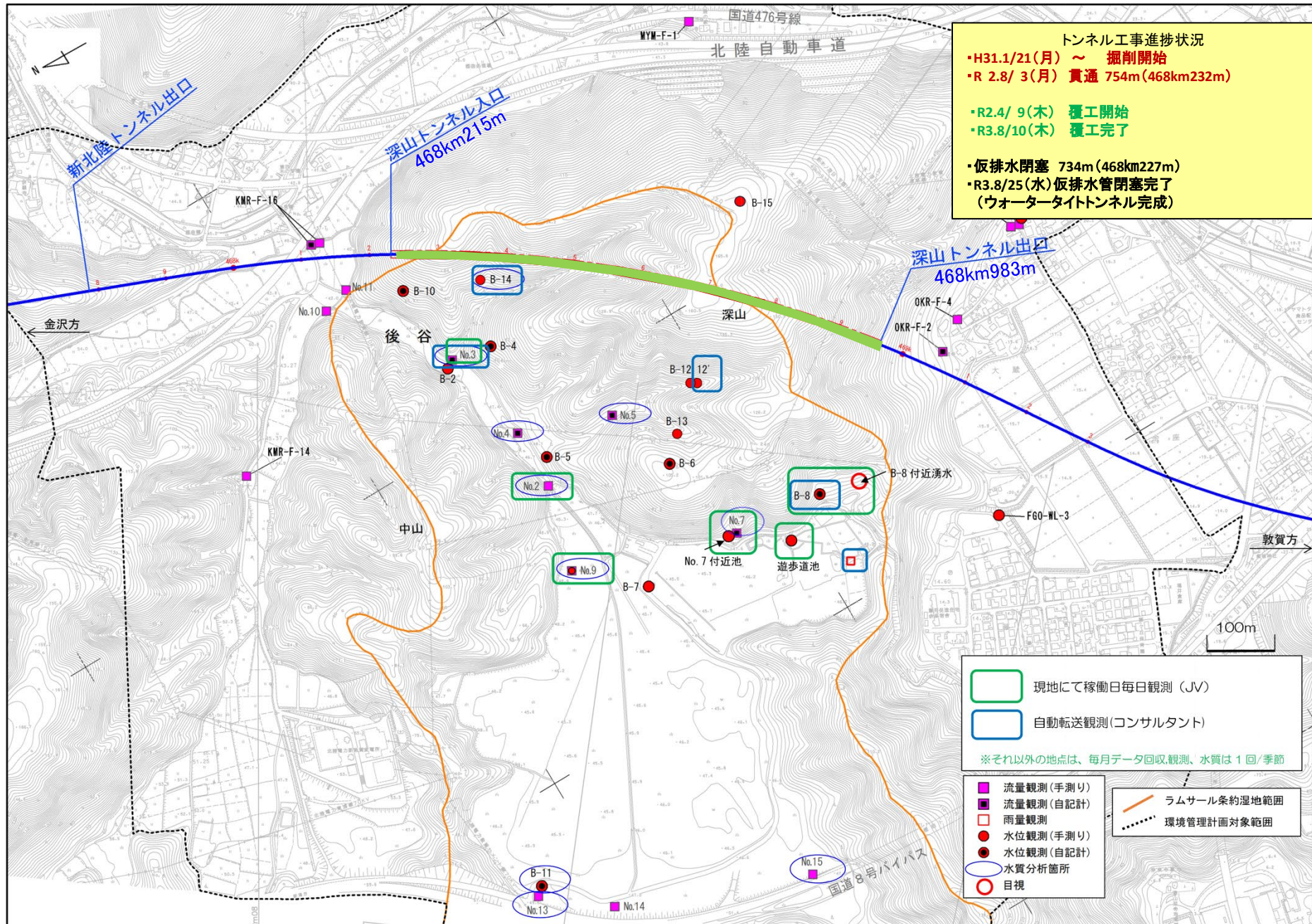


深山トンネル水文調査モニタリング報告書

調査期間：令和4年7月1日（金）～令和4年7月31日（日）

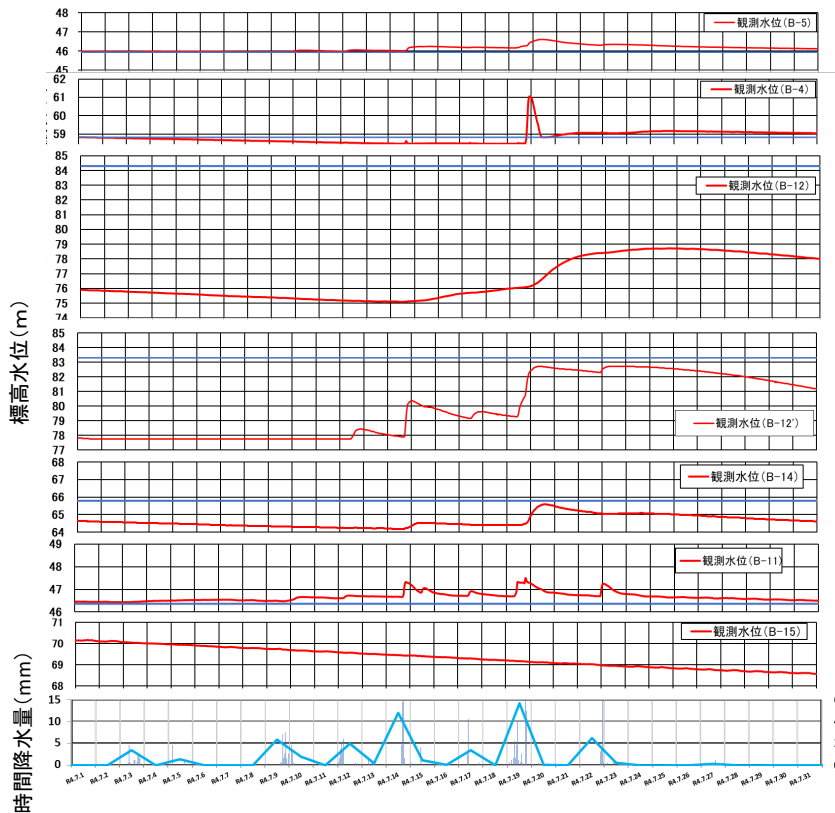
「北陸新幹線、中池見湿地付近深山トンネル等工事に係る環境管理計画」に基づき実施している水文環境モニタリング結果について報告する。



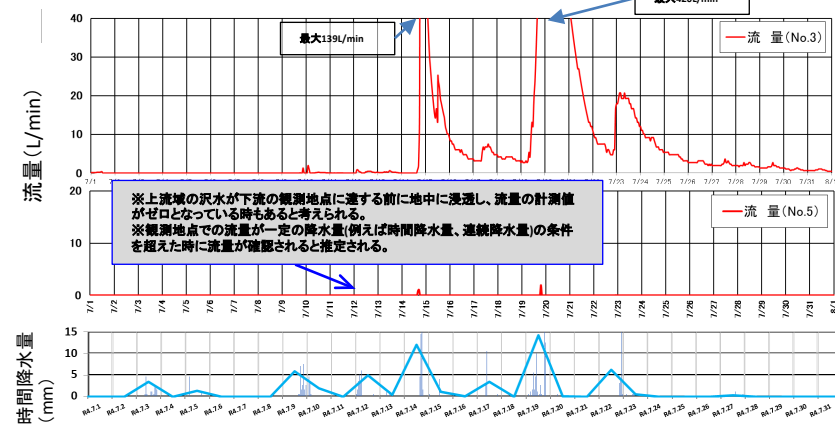
水文環境モニタリング観測地点図

※主要箇所のみ抜粋

地下水位観測結果図(自記記録)



流量観測結果図(自記記録)



B-5 地下水位
過年度最低水位
46.0m

B-4 地下水位
過年度最低水位
58.8m

B-12 地下水位
過年度最低水位
84.3m

B-12' 地下水位
過年度最低水位
83.3m

B-14 地下水位
過年度最低水位
65.8m

B-11 地下水位
過年度最低水位
46.36m

B-15 地下水位

雨量

No. 3 流量

No. 5 流量

降水量

全体総括

□目立った変動なし ■やや変動あり
 □変動あり(注意体制への移行を検討)

期間中の地下水位低下量

■1m未満ないし増加: 下記以外すべて

□2m未満 □5m未満

期間中の流量低下量

■50ℓ/分未満ないし増加: すべて □50ℓ/分以上

期間中のpH変動量

■0.5未満: B-8, B-12 □0.5以上 □1以上

日降水量

□15mm未満 ■15mm以上(4日) ■50mm以上(1日)

月降水量

□80mm未満 □80mm以上 □130mm以上 ■200mm以上

概要

■水位変動について

①やや変動あり。

②B-4(自記水位計): 期間中の7/19の降水に明瞭な反応を示し、水位が上昇する。7/19以降は、過年度最低水位を上回る状態が続く。

③B-5(自記水位計): 期間中の降水に不明瞭ながら反応を示す。期間中は、過去最低水位をわずかに上回る状態が継続する。7/14、7/19の降雨に反応を示し水位が上昇する。

④B-12(自記水位計): タイムラグがあるものの期間中の降水に反応を示す。水位は過年度最低水位を下回っている状態が続く。今後も注視する。

⑤B-12'(自動転送): 7月12日以降、降水に対し反応がみられるようになったが、期間中の水位は過年度最低水位を下回っている状態が続く。今後も注視していく。

⑥B-14(自動転送): 7/14、7/19の降水に明瞭な反応を示し一時的に上昇する。期間通して緩やかな低下傾向を示し、過年度最低水位を下回る。今後も注視していく。

⑦B-15(自記水位計): 期間中の水位は一定した低下傾向を示す。期間中の水位低下量は約1mである。今後も注視していく。

⑧No.3(自動転送): 期間の前半では流量0L/minの状態が続く(7/1現地確認)。期間中の降雨に反応を示し、一時的に2L/min程度となる。期間後半は流量が確認される状態が続くが、7/24以降の無降雨により流量が減少し期間末では1L/min程度である。今後も引き続き注視していく。

⑨No.5(自記): 7/14、7/19の降雨時に流量が確認されるが、それ以外は0L/minである。
 ⇒少雨や大雨の数日後の状況として、当該上流域の沢水が下流の観測地点に達する前に地中に浸透することにより流量の計測値がゼロとなっている状況がある。
 ⇒観測地点での流量が一定の降水量(例えば時間降水量、連続降水量)の条件を超えた時に流量が確認されると推定される。

■降水量について

①7月の日最大降水量: 7/19の56.5mmである。

⇒6月の日最大降水量: 6/6の34.0mmである。

②7月の降水量: 226.0mmである。

昨年7月は196mm、平年値(敦賀アメダス)は204mm

⇒6月の月降水量: 89.5mmである。

昨年6月は90mm、平年値(敦賀アメダス)は144.1mm